

# 住民参加型「田んぼの草花調査」手法の開発

## 研究のポイント

農地・水保管理支払交付金(旧農地・水・環境保全向上対策)などでの「生きもの調査」活動を想定し、植物知識の多寡に関わらず、参加者の誰もが満足できるような方法を開発しました。

## 研究の背景

- 「生きもの調査」は、農村が有する生物との触れ合いから、農業や農村への住民の理解を促進します。
- 水田畦畔にみられる「草花」は、カエルや昆虫などの生息に大きな影響を及ぼしています。
- 魚類やカエルなど動物の調査法の提案はありましたが、畦畔の草花についてはありませんでした。

## 手法の概要

本手法の概要は右図のとおりで以下の特徴を有します。

- 新たに開発したポケット版の専用図鑑を用いることにより、全国の畦畔で草花調査が可能
- 参加者の人数や属性、植物知識の多寡に応じて、調査活動プログラムを簡便に設計可能
- 調査票の工夫や地域の植生の健全度を図る指標の提示により、継続的な調査活動への参加モチベーションを高めることが可能

## 適用事例

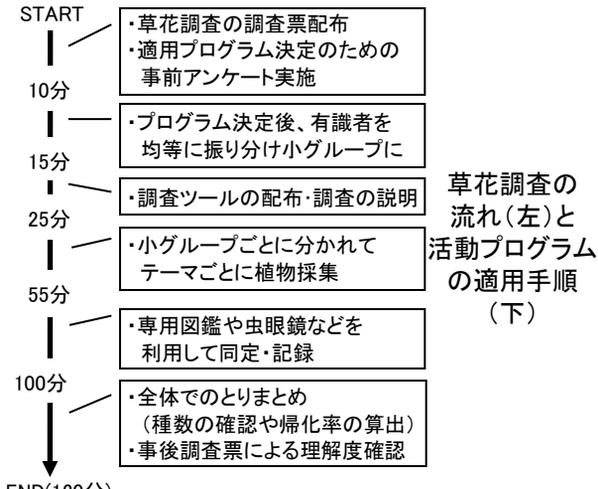
宮城県大崎市の6地区で本手法を適用したところ、全確認草種の6～8割程度が専用図鑑の掲載種で、参加者からは高い満足度が得られました。

開発した「田んぼの草花調査」手法の適用

	地区	A	B	C	D	E	F
実施月日		7/20	7/20	8/23	8/23	8/24	9/10
参加人数(うち子ども)		26(15)	12(0)	24(15)	18(12)	6(3)	5(0)
適用プログラム		P6	P6	P6	P6	P5	P4
全確認草種 <sup>注1)</sup> (A)		42	63	50	57	48	55
うち専用図鑑掲載種(B)		26	45	37	39	41	44
うち参加者の確認種(C)		16	24	31	33	28	38
(B)/(A)		62%	71%	74%	68%	85%	80%
(C)/(A)		38%	38%	62%	58%	58%	69%
参加者の満足度 <sup>注2)</sup>		—	—	90%	75%	100%	80%

注1: 対象畦畔の事後調査で観察された全種数。

注2: 事後アンケート(高校生以上)で、「満足」の感想が得られた割合。



参加者の属性と人数から属性タイプを決定

属性	高校生以上のみ	大人と中学生以下が半々程度	中学生以下が多数を占める
人数	10名以下	10~30名	30名以上
属性タイプ	A I	A II	A III

属性	植物知識のある参加者(有識者)多数: 数名: なし	人数少なく、有識者が多い場合	人数少なく、有識者も少ない場合	人数多く、有識者が少ない場合
A I	P1, P2, P4	・全出現種を採集, 各人で作業 (P1, P2)	・未同定種の標本作製 (P1)	・開花期の草種を採集, 各人で作業 (P4)
A II	P3, P5, P6	・全出現種を採集, グループで作業 (P3)	・開花期の草種を採集, グループ作業 (P5)	・花の色を決めて採集, グループ作業 (P6)
A III	P5, P6	・全出現種を採集, 各人で作業 (P5, P6)	・開花期の草種を採集, 各人で作業 (P5, P6)	
B I	P2, P3, P5	・全出現種を採集, 各人で作業 (P2, P3, P5)		
B II	P5, P5, P6	・全出現種を採集, グループで作業 (P5, P6)		
B III	P5, P6, P6	・全出現種を採集, グループで作業 (P5, P6)		
C I	P2, P4, P6	・全出現種を採集, 各人で作業 (P2, P4, P6)		
C II	P5, P6, P6	・全出現種を採集, グループで作業 (P5, P6)		
C III	P6, P6, P6	・全出現種を採集, グループで作業 (P6, P6, P6)		